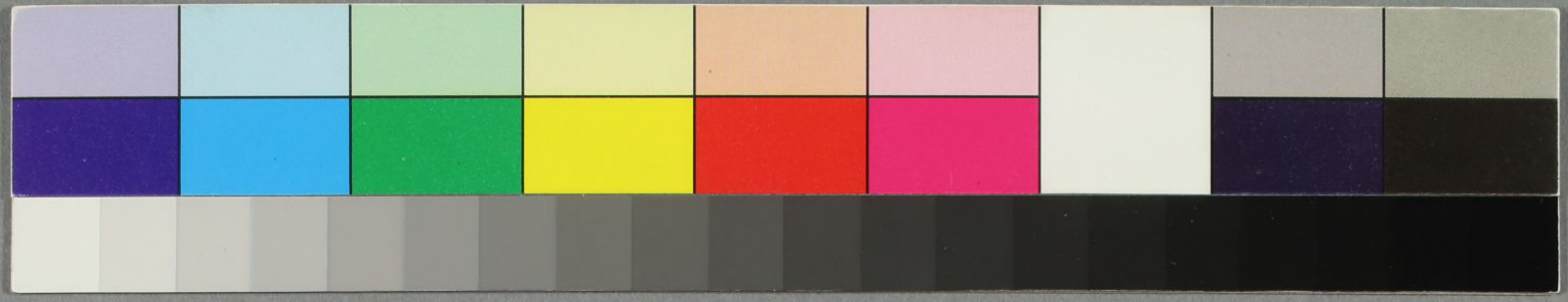


没者歳且帳
戸

特別
千 13
3849
39 (3)





千 13
3849
39-3

後者やく喜さいえり歳且帳藝品定

江戸の巻



喜きの日記

江戸の巻

巻

巻

巻

十
五
三



大立若の出場

よやくこれ
み声乃

大高りか若若の

中村

我定のうとふ
市村の聴ひ

あめと入ん

れーはけく

表田此

えんぶ
盤昌

中村勤三席

市村勤九席

表田勤五席

實悪
松幸喜四席

表田勤
中村富十席

立波之部

市川園藏

市川園十席

市川園

上吉
三五席

知りの評判ひさ後

上上音 大谷廣法 書院

上上音 市川八百後 書院

上上音 坂東三津入席 書院

上上音 坂田友十席 書院

上上音 富沢辰十席 書院

上上音 沢村松十席 書院

上上音 尾上十雲助 書院

上上音 三津登助十席 書院

上上音 益左又九席 書院

中村村の初めはびびり十

上上 里番中村勝又席 書院

上上 男松本秀十席 書院

上 曉章坂本定十席 書院

上 花地坂本春十席 書院

上 尾上政彦一上市川章彦 書院

上 坂本嘉彦中一上市川深彦 書院

上 市川時彦中一上中村氏十席 書院

上 尾上叶助 書院

上上音 坂田才又席 書院

上上音 中村仲彦 書院

▲実為之部

上上音 坂田才又席 書院

上上音 中村仲彦 書院

上上音 大谷廣法 書院

上上音 尾上叶助 書院

上上吉 中崎三浦太田門 中村

上上 中村良又市一 中村

▲款後之部
中村助又市一 中村

上上主 大谷友太市門 中村

上上吉 富沢市三市一 中村

上上 中崎勸九市門 中村

上上 中崎市川深又市一 中村

上上 中崎市川三市一 中村

上上 平久坂市三 中村

上上 豊市川昭市門 中村

上上 松坂市四国 中村

上上 中崎市川總市 中村

上上 中崎市川和回市 中村

上上 中崎市川深市 中村

上上 中崎市川中十市 中村

上中崎市川中上中村友十市 中村

上坂市川中上上中村友十市 中村

上中崎市川中上中村友十市 中村

▲道外形之部
中崎市川久市 中村

上上 中崎市川久市 中村

▲親仁形之部
中崎市川久市 中村

上上 中崎市川久市 中村

上上 盛徳伏川新九郎一 貞

▲花車形之部

上上 市鶴市川伴達彦 貞

上上 市言市川香入郎 貞

上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

上上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

上上 山下金作 貞

▲花車形之部

上上 吾妻屋友松 貞

▲花車形之部

上上 芳沢崎之助 貞

▲花車形之部

上上 中村泰代三郎 貞

▲花車形之部

上上 中村泰之助 貞

▲花車形之部

上上 岩井半之助 中村

▲花車形之部

上上 中村野 貞

▲花車形之部

上上 嵐 貞

▲花車形之部

上上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

上上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

上上 山下系之助 中村

▲花車形之部

上上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

上上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

上上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

上上 露屋田東五郎 貞

▲花車形之部

一瀨中千松 村名 一瀨中政之助 三六
一中村松屋 三三 一風虎 彦 彦
一風 彦 彦 彦

市村氏又子分

一三河川 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 井
一風 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
一三河川 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
一瀨中政之助 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

表回社久分

一風物 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
一中村 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
一風物 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
一中村 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
一風物 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
一中村 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

中村氏長

七三の彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
▲古夫元之部
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

上吉 中村氏九節

彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

大上吉 市村氏九節

彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

上上吉 表回社

彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

犯言作者之部

中村氏九節 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

大坂歌後山下次郎 三

彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦
彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦 彦彦

○いふおていふおせやうまき

三ヶ津氣水定

二の智大評判

他者自災

勢の發の柳のたて

附リ

九青柳の物記あつ

勢の龍の橋と映は

赤朱蕨の芝の巻に

後者いづくも 全三冊

和の勢の橋と通ふ

希に 在自虎の系打り

色子の勢の橋と通ふ

後全氏の長かり

在之平上二月の月合出の中ゆる

を其の内果の候でくらりゆり

板元 八文字を

○我も勢の橋と通ふ

今家も幸運思外は空雲并赤南の橋

勢の勢の橋と通ふ

今家も幸運思外は空雲并赤南の橋

勢の勢の橋と通ふ

今家も幸運思外は空雲并赤南の橋

勢の勢の橋と通ふ

今家も幸運思外は空雲并赤南の橋

勢の勢の橋と通ふ

今家も幸運思外は空雲并赤南の橋

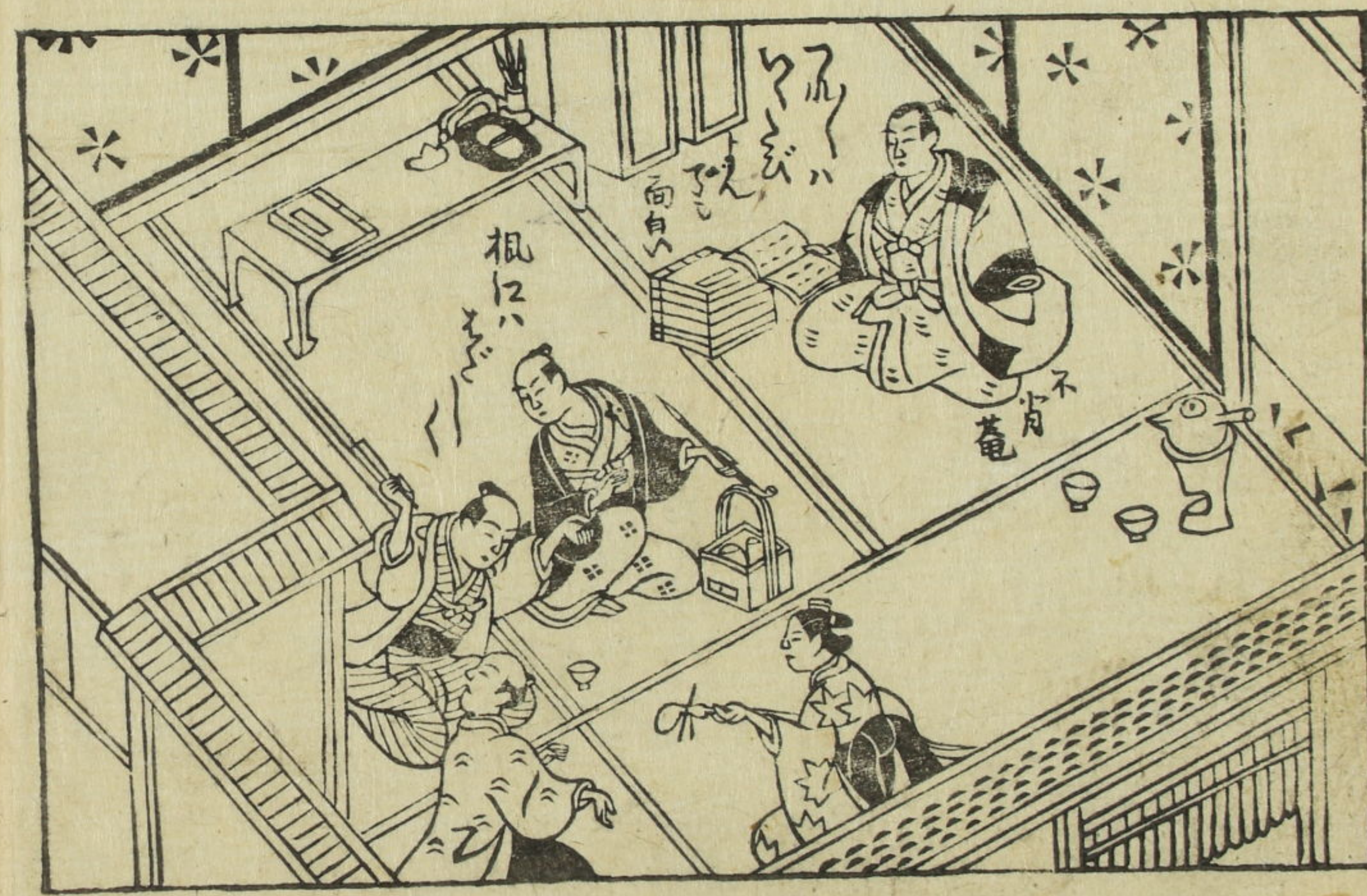
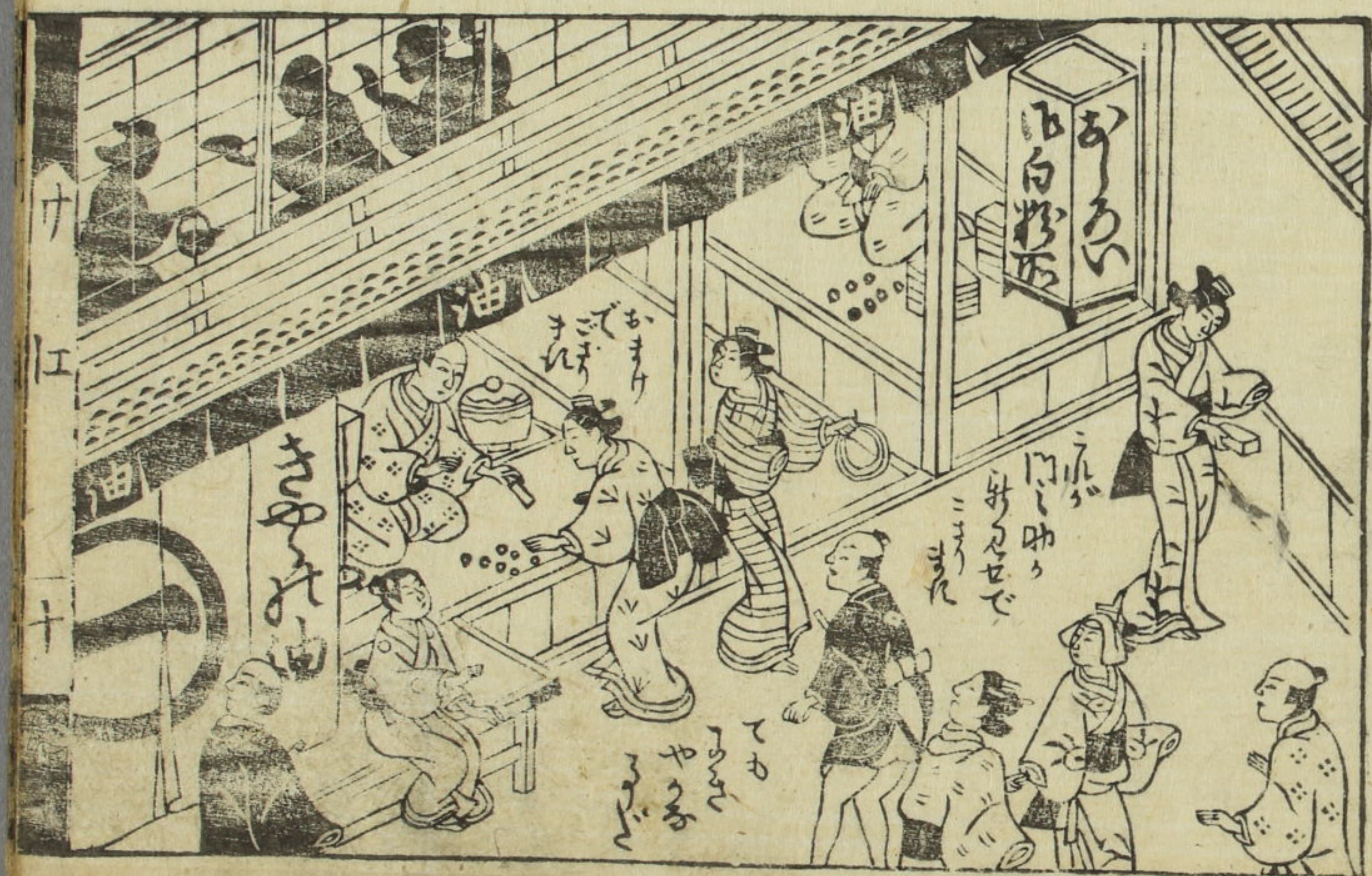
勢の勢の橋と通ふ

今家も幸運思外は空雲并赤南の橋

勢の勢の橋と通ふ

今家も幸運思外は空雲并赤南の橋

勢の勢の橋と通ふ



くふ解^{あひ}を立^たゆいふふてもの給
 勢^いの立^たふふふふひて者^{もの}後^ごたのふ
 きて中^{ちゆう}と書^{しよ}を想^{きやう}てあふたがのさ
 てむのふ^た扱^{あつか}ひ後^ごたのふ^ます
 があふたの書^{しよ}後^ごたのふ^ます
 みてふふた書^{しよ}てふふとあふた
 言^いのふふふふふふふとあふた
 云^いのふふふふふふふとあふた
 后^ご通^{つう}のふふふふふふとあふた
 ふふふふふふふふふふふとあふた
 然^{しか}れふふふふふふふふふとあふた

四和八^し 卯乃^う 化者^{くわ} 自笑^じ 笑

少

▲無類之部

實思 (57) 松本幸四郎 中村元

想^{きやう}は者^{もの}のか^がら^らに^にか^かる^る海^{うみ}なる^る

原^{はら}事^{こと}り^りき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと

小^こき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと

相^あ送^{じゆ}十^{じゆ}三^{さん}回^{かい}を^を以^もて^て追^おひ^ひ去^きと^とし^し將^{まさ}に^に下^か

依^より^り相^あ送^{じゆ}内^{うち}縁^{えん}の^の名^なで^でこ^こら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと

周^{しゆう}十^{じゆ}名^なの^の名^なと^とを^を依^より^り相^あ送^{じゆ}内^{うち}縁^{えん}の^の名^なと^とを^を

魚^いと^とら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと^とら^らき^きと

口^{くち}上^{じやう} [58] 相^あ送^{じゆ}三^{さん}條^{じょう}の

回^{かい}を^を以^もて^て追^おひ^ひ去^きと^とし^し將^{まさ}に^に下^か

松^{しょう}本^{ほん}の^の名^なと^とを^を依^より^り相^あ送^{じゆ}内^{うち}縁^{えん}の^の名^なと^とを^を

事^{こと}の^の名^なと^とを^を依^より^り相^あ送^{じゆ}内^{うち}縁^{えん}の^の名^なと^とを^を

の^の名^なと^とを^を依^より^り相^あ送^{じゆ}内^{うち}縁^{えん}の^の名^なと^とを^を

中野市村へ又中野村より五里と一里ありしが
并登り出づ。同十六日の山月回ると別添東海氏
にありて牛の乳が神を養ふが由南無八刹
かゝるが海よりまゝにひき保えぬの月
中野寺塔谷別名松の塔よりわたりて新井と
小女形にて上を塔谷女やうとありて大あきり
まゝ宝曆三年の正月中ゆりた下を末は相模目
記のひきまゝに大あきりおつた居りて同八
年市ゆりたより年回をて女を担ぎ若谷の寺
れ家にて今に大今と大坂とせりてまゝ十二
丁裏田をちりてにまのかり 八五とてくく
ひなうふげいび都深敷王うづき第一裏り金三郎が
姉様まで信長忠信があつては喜の娘とあらえ
せしるおふれ約のまがうとせりてくくの新井と
まゝ一里の口上り自今めくくといひて金三郎

物ゆりたのまをまゝくく大もく海に松院といひ三
番の物ゆりたまゝにまの約の喜もくくもあつた
向物まがまゝにまの喜もくくもあつたのま
かゝるまゝにまの喜もくくもあつたのま
のまのまゝにまの喜もくくもあつたのま
らうちの海をたつてまの喜もくくもあつた
ててるまゝにまの喜もくくもあつたのま
小龍をたつてまの喜もくくもあつたのま
次合をたつてまの喜もくくもあつたのま
ゆりたのまの喜もくくもあつたのま
のまのまゝにまの喜もくくもあつたのま
らうちの海をたつてまの喜もくくもあつたのま
ててまの喜もくくもあつたのま
佛のまの喜もくくもあつたのま
哀願寺の幕たつてくく大の喜もくくもあつた

佛をせんが死をうけしむるにたれくもな本枕
下のらんやうくくそのにちう大當りあてか掲ぐ

立役之部

大上吉 回 市川團藏 中村元

其ののちのせまがくふま赤あぢぢぢり

娘出 花の影をうかすのまをうかすうてんあ

合ふてく三井おの影いん人のしんや一着あて

長相をあたままきく義徳をまぢぢぢりひの作

さんしつぢぢぢぢぢぢぢひのたぢぢぢぢぢぢぢ

秋まてあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

長小ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

お勤一巻うてまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

はぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

法合のぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

と勤役のぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

一巻ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

向迄の十一ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

及ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

くぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

こぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

夜鷹森陽的 中村在



十五

あつたふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
ちぢたふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
くまのりや入や赤はしほふ清き火の流れてくる
ちぢたふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
ざらを見てなすけ目目の火くまのりかきかたれ
赤い髪がやうな髪がうらみの髪がうらみの髪が
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ

上上吉回 市川團十郎 中村右

あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ

あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ
あかふらふらとせむらひのうらみかきかたれ

に説き及ぶ事本巻良哲言にありて己の正月
三日大坂より候ありては人見三つと志事出
食見の世法を正月口上り良哲言の区は茶
ちの山伏を御座りしが御座りて今今の徳意う
ちの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
お月大坂三井の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
登りて南方の今に付申さうに今家書に成
お月大坂中内と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
る及ちれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
去秋九月廿六日京屋を去りて申さうに今に付申
名はりて大坂と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
た御座りて男はと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
のよと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
才二書に實に御座りて申さうに今に付申さうに今に付申
時以のなり申さうに今に付申さうに今に付申

つづくの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
ゆへに申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申
く申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申
尾の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
志と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
山林の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
時以の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
ら申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申
い申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申
時以の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
る申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申
所申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申
申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申
申さうに今に付申さうに今に付申さうに今に付申

上上吉 ⊕ 大谷 廣作 市村

わのいん **申** サツ **い** が 八 自 入 八 四 四 申 申 出

書 取 せ ば 三 三 八 出 本 入 七 流 也 申 申 申 申 申 申 申 申

友 會 集 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

矢 を 五 派 八 難 八 下 七 出 神 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考

以 二 三 九 八 五 八 四 五 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

八 四

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 四

が 申

が 申

神 宮 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

一 一

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

上 上 音 神 坂 本 三 津 八 第 一 一 第 一 一 第 一 一

一 一

附 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

一 **申** 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

が 難 事 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

カ 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 **申** 何 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

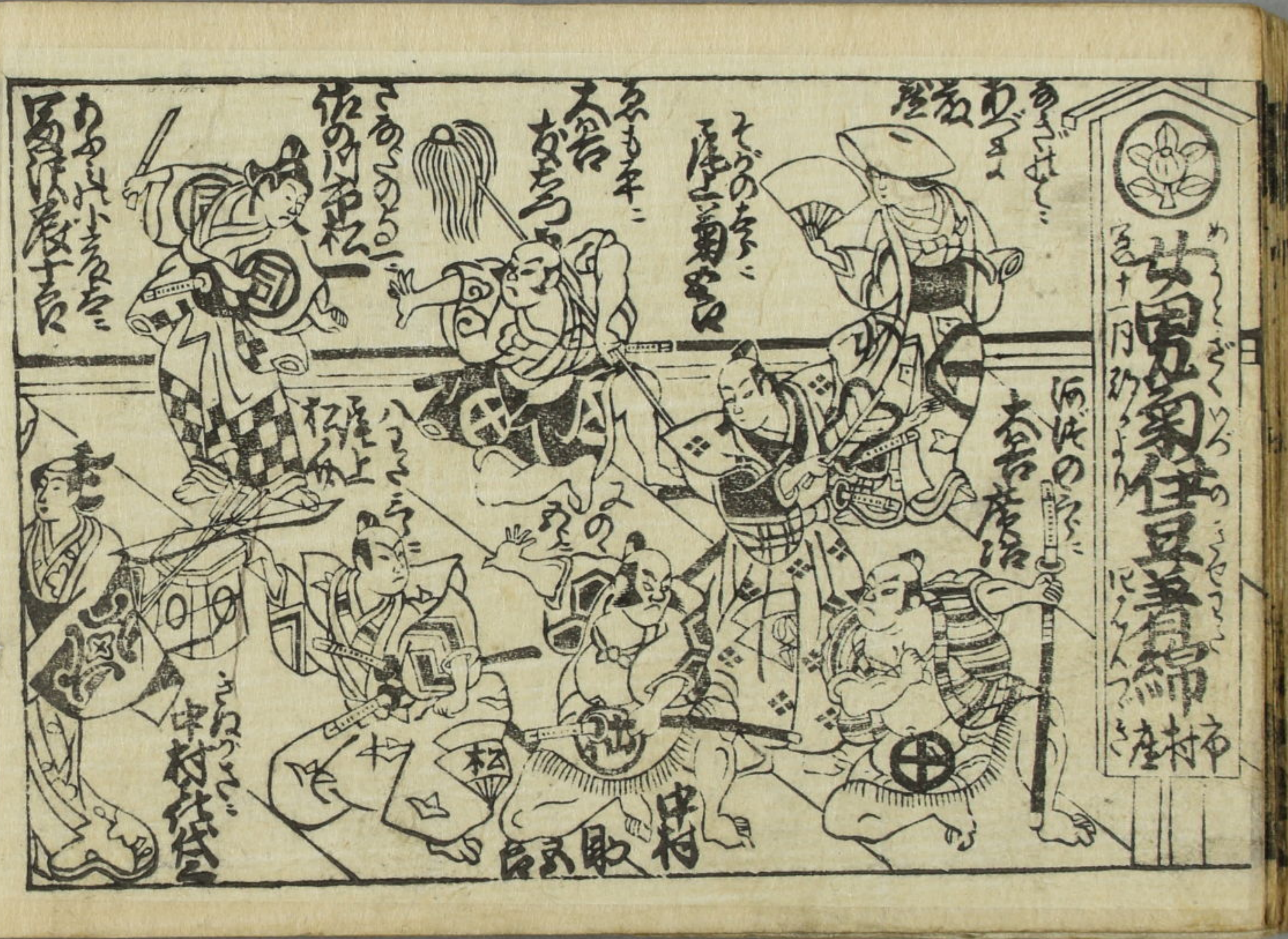
が 申

大 申

が 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申

申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申 申



世の法をいひておぼしめし

上上吉 坂田坂十郎 中村

又うへにふくむるものあるものありけり

願ふところの無のあらあまの神決をいふものあり
はうたふし海にふかきうまの 四九 二をいふ柱をいふ
あるものありふくむるものありふくむるものあり
利百の改食中いふものありふくむるものあり
さしむるものありふくむるものありふくむるものあり
三井も我儘の事いふものありふくむるものあり
さうりふくむるものありふくむるものありふくむるものあり
うへにふくむるものありふくむるものありふくむるものあり
ふくむるものありふくむるものありふくむるものあり
あるものありふくむるものありふくむるものあり
はうたふし海にふかきうまの 四九 二をいふ柱をいふ
大でいふものありふくむるものあり

上上吉 富沢辰十郎 中村

休みの日 神のし

四九 二をいふ柱をいふ
あるものありふくむるものありふくむるものあり
はうたふし海にふかきうまの 四九 二をいふ柱をいふ
大でいふものありふくむるものあり

上上吉 井沢村十郎 中村

休みの日 神のし

あるものありふくむるものありふくむるものあり
はうたふし海にふかきうまの 四九 二をいふ柱をいふ
大でいふものありふくむるものあり

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a dark ink on aged paper.

上上 尾上松助 右村

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, continuing the account or record.

Handwritten text in a cursive script, continuing the account or record.

上上 三升五脚十第 一書

Handwritten text in a cursive script, continuing the account or record.

上上 三卷又九第 一書

Small handwritten characters or marks at the bottom of the page.

「おはなせのあひなつにむかひあはせし

原田の後のつれづれと一巻の巻二つ分がた
手紙くれなせ又た入敷にてあつたを三はれ敷
入敷の巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
れすの巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
つれづれと一巻の巻二つ分がた
まふたの巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
まふたの巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
あつたを三はれ敷の巻二つ分がた
あつたを三はれ敷の巻二つ分がた

上上 中村勝又布 巻二

はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ



上上 松本秀十布 巻二

はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ

大生吉 尾上菊又布 巻二

はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ

はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ
はびる巻二つ分はつたを三はれ敷の巻二つ

入るまでいづれのつかいなきかきつりての
かきつりては市村方の立致と見えまはれ候
と申す候

上上 倉 中村 中村 中村 中村

乃れけむ友近の信にあらん事候かまへてのあらん
余もいづれもいづれもいづれもいづれも

上上 土田 中村 中村 中村 中村

あぢあぢのいはるゝと申す候

附出 といふ件は申す候に申す候に申す候
ハ件々の事、
申す候に申す候に申す候に申す候
申す候に申す候に申す候に申す候
申す候に申す候に申す候に申す候
申す候に申す候に申す候に申す候
申す候に申す候に申す候に申す候
申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

申す候に申す候に申す候に申す候

都津牧主被度回座



中村

の

あ

中村

板東

三津

大台

中村

田

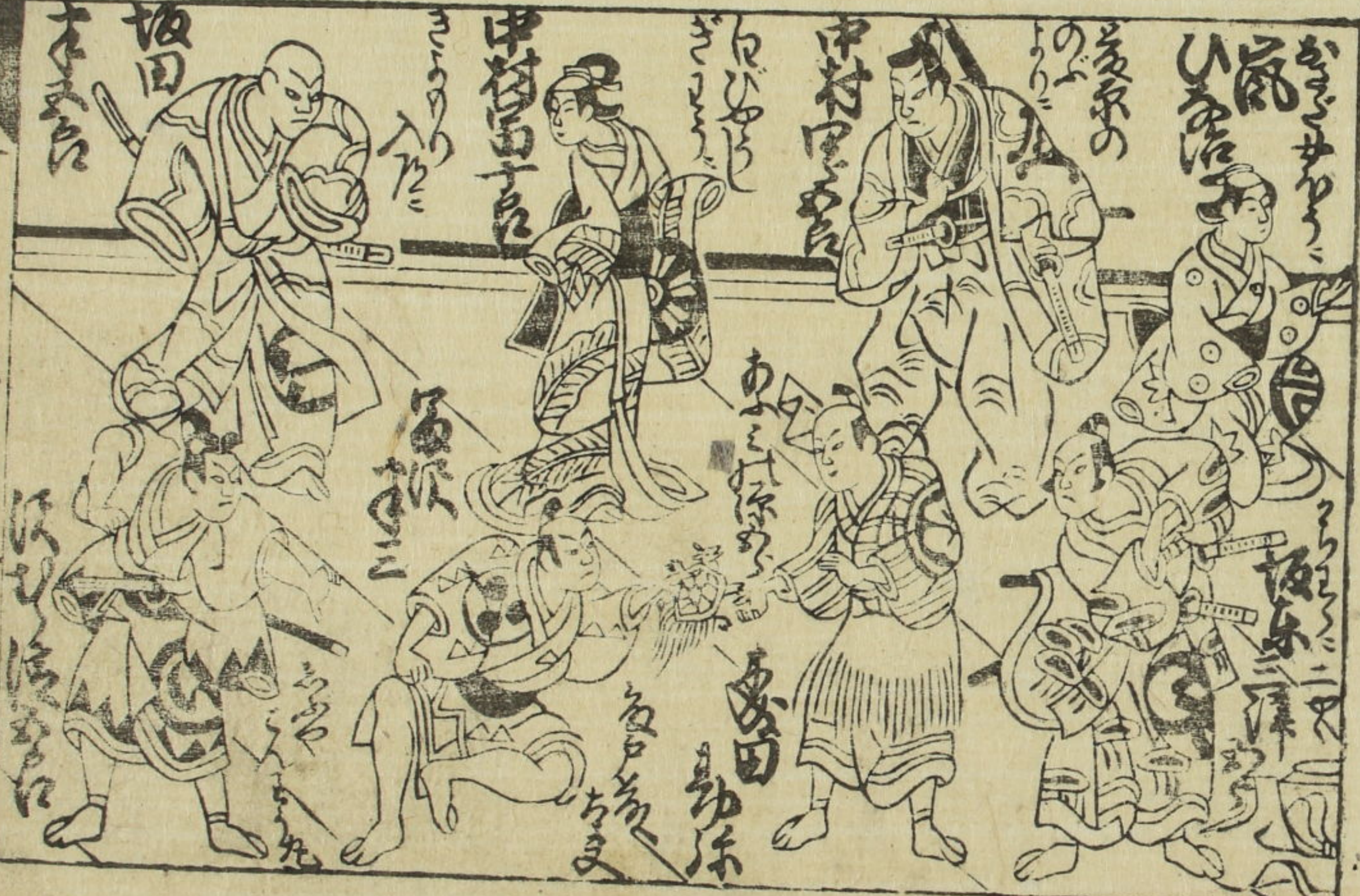
留

村

干

千

推



い

あ

中村

あ

中村

あ

板東

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

江

江

江

上 中村借入布一巻
上 中 嵐 巻 八 中村

嵐巻は取寄て巻八の巻の折は取寄る
嵐巻は取寄て巻八の巻の折は取寄る

▲親仁形一巻

上 山 中 平 九 布 中村

上 上 川 依 川 新 九 布 中村

依川新九布は取寄る

▲花車形一巻

上 市 川 伴 遠 巻 中村

巻八の巻の折は取寄る

巻八の巻の折は取寄る

巻八の巻の折は取寄る

巻八の巻の折は取寄る

上 市 川 伴 遠 巻 中村

上 上 市 川 伴 遠 巻 中村

上 上 市 川 伴 遠 巻 中村

上 上 市 川 伴 遠 巻 中村

▲若女形一巻

上 上 吉 市 川 菊 之 巻 中村

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

市川菊之巻は取寄る

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, starting with a large character that resembles '上' (top) or '上上' (top top).

上上吉 會中村松江三郎 中村松

Handwritten text below the name, possibly a date or address.

Main body of handwritten text in cursive script, continuing the document's content.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific section header.

上上吉 * 中村松江 中村松


Handwritten text below the name, possibly a date or address.


Main body of handwritten text in cursive script, continuing the document's content.


上上吉回 中村松江 中村松


Handwritten text below the name, possibly a date or address.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a date or a reference number.

又せ[凡]あめのおのりやうを辰籠めて中車た
りて人の定にせりく二はあめのおを流るる
とゆきまはしはふらちかたが最宿をのりまはる
とあまがまののりまはるを又て我きくばるの
祈をあふり。此のふたよをかくる。上宿中の御
羽の矢をくじ。歌八宿をすきて。くじをくじりて
ひふらののりまはる。くじまはるのりまはる
里野とあふり。宿事いかにあつた。何れも
上上宿  中村野塩 赤田
[慶子のいそぐく]口よりむまが林だ

[眼目]ふふりくくく八宿の宿事いかにあつた。何れも
及けはあめのおのりやうを辰籠めて中車た
りて人の定にせりく二はあめのおを流るる
とゆきまはしはふらちかたが最宿をのりまはる
とあまがまののりまはるを又て我きくばるの
祈をあふり。此のふたよをかくる。上宿中の御
羽の矢をくじ。歌八宿をすきて。くじをくじりて
ひふらののりまはる。くじまはるのりまはる
里野とあふり。宿事いかにあつた。何れも
上上宿  中村野塩 赤田
[慶子のいそぐく]口よりむまが林だ

属とくまはるくくく八宿の宿事いかにあつた。何れも
及けはあめのおのりやうを辰籠めて中車た
りて人の定にせりく二はあめのおを流るる
とゆきまはしはふらちかたが最宿をのりまはる
とあまがまののりまはるを又て我きくばるの
祈をあふり。此のふたよをかくる。上宿中の御
羽の矢をくじ。歌八宿をすきて。くじをくじりて
ひふらののりまはる。くじまはるのりまはる
里野とあふり。宿事いかにあつた。何れも
上上宿  中村野塩 赤田
[慶子のいそぐく]口よりむまが林だ

上上宿  中村野塩 赤田

[慶子のいそぐく]口よりむまが林だ

上人四四月五日申時... 末末末... 大目... 三... 小...

上上



改川雄漢一

改川雄漢一... 改川雄漢一... 改川雄漢一...

上上



改川七

改川七... 改川七... 改川七... 改川七...

上上 山下京

改川七... 改川七... 改川七...

上上 尾上民

改川七... 改川七...

以下に記す中から正しく記すものを選びて
の表とてつけ佐敷のふたれならぬとて
二人のふたれとてつけ佐敷のふたれといふこと
ありしを記す

上上 ① 嵐小式部 中村

② 市川小太夫 中村

上上 ③ 市川小太夫 中村

上上 ④ 市川小太夫 中村

上上 ⑤ 市川小太夫 中村

上上 ⑥ 市川小太夫 中村

上上 ⑦ 市川小太夫 中村

上上 ⑧ 市川小太夫 中村

上上 ⑨ 市川小太夫 中村

上上 ⑩ 市川小太夫 中村

以下に記す中から正しく記すものを選びて
の表とてつけ佐敷のふたれならぬとて
二人のふたれとてつけ佐敷のふたれといふこと
ありしを記す

▲若丸形と部

上上 ① 市川小太夫 中村

上上 ② 市川小太夫 中村

上上 ③ 市川小太夫 中村

上上 ④ 市川小太夫 中村

上上 ⑤ 市川小太夫 中村

上上 ⑥ 市川小太夫 中村

出らば入らば投の如く一たびしんばへ〔55〕
とぞいへ

上上士 ① 市川門之助 中尉元

今つくと此程をまゝいひせん

〔五〕名もくちのふらふらと申儀をいひたまふ
花形のまゝに「本」のまゝに申儀をいひたまふの
字の元々のたしめあふふらふらと申儀
と申儀の娘の内のまゝに申儀をいひたまふの
三人の元々のまゝに申儀をいひたまふの
大津虎のまゝに申儀をいひたまふ

上上 ② 坂本素三郎 中尉

申人の素三郎と申儀をいひたまふ

〔六〕名もくちのふらふらと申儀をいひたまふ
と申儀の娘の内のまゝに申儀をいひたまふの
三人の元々のまゝに申儀をいひたまふの
大津虎のまゝに申儀をいひたまふ

上上 ③ 江村澄み希 中尉

たまふゆへにやうらの花

〔七〕名もくちのふらふらと申儀をいひたまふ
と申儀の娘の内のまゝに申儀をいひたまふの
三人の元々のまゝに申儀をいひたまふの
大津虎のまゝに申儀をいひたまふ

上上 ④ 市川霞彦 中尉

上上 ⑤ 市川吉次 中尉

〔八〕名もくちのふらふらと申儀をいひたまふ
と申儀の娘の内のまゝに申儀をいひたまふの
三人の元々のまゝに申儀をいひたまふの
大津虎のまゝに申儀をいひたまふ

中村少長の流目録の事なり

惣巻油 立役 中村少長

中村在

かみせやちをゆづりたる巻油少長

まろし柄のたもとをうらふ角今昔

此巻油をゆづりたる巻油をゆづりたる

少長と名のゆづりたる巻油の事なり

史例なるゆづりたる巻油の事なり

巻油の事なり

かみせやちをゆづりたる巻油の事なり

まろし柄のたもとをうらふ角の事なり

此巻油をゆづりたる巻油をゆづりたる

少長と名のゆづりたる巻油の事なり

史例なるゆづりたる巻油の事なり

まろし柄のたもとをうらふ角

▲たまえと部

巻不出 中村勘三郎

上上吉 中村信九郎

まろし柄のたもとをうらふ角

此巻油をゆづりたる巻油をゆづりたる

少長と名のゆづりたる巻油の事なり

史例なるゆづりたる巻油の事なり

まろし柄のたもとをうらふ角の事なり

此巻油をゆづりたる巻油をゆづりたる

少長と名のゆづりたる巻油の事なり

史例なるゆづりたる巻油の事なり

まろし柄のたもとをうらふ角

大上上吉 市村羽左衛門

まろし柄のたもとをうらふ角

此巻油をゆづりたる巻油をゆづりたる

少長と名のゆづりたる巻油の事なり

史例なるゆづりたる巻油の事なり

まろし柄のたもとをうらふ角の事なり

此巻油をゆづりたる巻油をゆづりたる

上上吉



市村龜子

たのもしせんごんのうごまあり

上上吉 森田勘次



せみめんかやうを壽く

明治八年 卯正月吉日 京寺町二条 正本屋九之清板 京寺町せいのふ下町 八文字屋八之巻の板

明治八年

卯正月吉日

京寺町二条

正本屋九之清板

京寺町せいのふ下町

八文字屋八之巻の板

